



「松山の授業モデル」とICT活用（生活科）

学習場面 (松山の授業モデル)	ICT活用例
<p style="color: red; font-weight: bold;">■ 学習課題の設定</p> <p style="background-color: #800000; color: white; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">習得・活用・探究</p>	<p style="background-color: yellow;">思いや願いをもつ場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動や体験は教師の指示からではなく、児童の思いや願いから始まるのが大切である。その際、ICTを活用して学習対象を視覚的で分かりやすく提示することにより、児童が学習対象に興味や関心を抱くようになることが考えられる。 ・実物投影機を介して地域にある公園の写真を、書き込み機能を持つ大型提示装置に提示する(A1)。児童は、映っている遊具や看板などを手掛かりにして、それがどこの公園であるかを考えていく中で、今まで気付かなかった公園の特徴とともに、自分たちだけではなく様々な人たちが利用していることに気付き、公共施設としての公園の働きに興味や関心を向けていくようになる。
<p style="color: green; font-weight: bold;">■ 交流し考える学習</p> <p style="background-color: #808000; color: white; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">交流・表現・体験</p>	<p style="background-color: yellow;">活動する・体験する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な場所を調べたり利用したりする過程で、そこで出会う「人・もの・こと」について、ICTを活用して多様な情報を記録し、その後の報告活動に生かすようにすることが考えられる。 ・町探検で地域の店や公園などを訪問したり利用したり、そこで働く人々や利用する人々にインタビューしたりする際に、「探検カード」記録と併せて、デジタルカメラやタブレット型学習者用コンピュータを活用して興味や関心を抱いたことを撮影しておく(B2)。 <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="width: 70%;"> <p>教室に戻り、探検結果の報告会を行うときには、言語による発表に加え、伝えたい事柄に応じて取捨選択した画像を大型モニターなどに映すことで、気付いたことなどが伝わりやすくなる(C3、C1)。その結果、児童一人一人の発見が共有され、町のイメージを広げたり、新たな探検への意欲を高めたりしていくことにつながる。</p> </div> <div style="width: 25%;">   </div> </div> <p style="background-color: yellow;">表現する・行為する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が、相手に応じた様々な方法によって情報を伝え合う活動を行う際に、ICTを活用することが考えられる。 ・繰り返し町探検を行い、人との関わりを深めてきた児童の中には、「町探検でお世話になった〇〇さんに、私の姿と声が入ったビデオメッセージでお礼の気持ちを伝えたい」という思いをもつこともある。そこで、児童は、教師の支援を受けながら相手に自分の気持ちが伝わるように、表情や話し方などの仕草を工夫して、ビデオメッセージをつくっていく(C3)。作成したビデオメッセージは、デジタル情報である利点を生かして、メールで送信することも可能である(C4)。

■ 学習の振り返り

内容×方法

感じる・考える場面

・活動や体験に没頭してきた児童が、その後の振り返り活動において自分たちの行為を客観的に振り返る際に、ICT を活用することが考えられる。遊びや遊びに使うものを工夫してつくる活動の延長として、園児を招待して遊びを紹介し一緒に楽しむ活動を行う際、教師がその様子を動画で撮影しておく。活動を終え、児童が自らの取組を振り返るときに、教師が撮影した動画も提示する (A1)。これにより、園児に一生懸命関わろうとする自分の姿を、表情や言葉、動きとして客観的に捉えることが可能となる。また、自分とは異なる他の友達の関わり方や、園児の表情やつぶやきについても繰り返し確認することが可能となる。園児と直接関わって自分自身が感じたことに、動画を通して客観的に感じたことも加えながら振り返ることで、没頭しているときには実感しにくい活動のよさに気付いていくことができる (B3)。

